

■久坂玄瑞 萩藩士。高杉晋作と松下村塾の双壁と謳われ、藩尊攘派を主導、長井雅楽を弾劾し藩論を一変させた。

くさかげんずい

勲進帳初演・1840＝ 長門国萩平安古八軒屋で、藩の寺社組医師久坂良迺の次男に生まれる。

阿部正弘首座1845＝ 5歳：

北斎没・・・1849＝ 9歳： 幼時吉松淳三の私塾に学び、
ついで藩校明倫館に入り、

のち医学所で蘭学を学んだ。

ペリー来航・1853＝13歳： 母を失う。

開国開港・・・1854＝14歳： 兄および父を失って家督を継ぎ、家禄25石を給せられた。

松下村塾・・・1856＝16歳： 九州遊歴。この頃より吉田松陰との文通が始まり、

蕃書調所・・・1857＝17歳： *幽室の松陰との親交し、その妹文と結婚、松陰の実家杉家に同居して松下村塾での教育を助ける。

松陰から、その才は'縦横無礙'といい、"高からざるに非ず、且つ切直人に逼り、度量亦窄し。然れども自ら人に愛せらるるは、潔烈の操、之れを行るに美才を以てし、且つ頑質なきが故なり"と評される。

五ヶ国条約・1858＝18歳： 江戸遊学の許可を得、江戸-京都間を奔走して松門や梁川星巖・梅田雲浜らと交友、蘭学・医術を研究。

安政の大獄・1859＝19歳： *帰藩。藩の西洋学所官費生となり、ついで同所舎長となる。松陰の処刑後はその遺志を継ごうとして、

桜田門外変・1860＝20歳： 塾舎で遺著その他を門人らと読み、

遣欧使節・・・1861＝21歳： 塾生と"一燈銭申合"を結ぶ。公武合体運動に反対して和宮の降嫁を阻止しようとしたがならず、

生麦事件・・・1862＝22歳： *長州藩論をリードしていた長井雅楽の"航海遠略"策を痛烈に批判、藩主にも弾劾書を提出。坂本竜馬・吉村寅太郎らとも接し、土佐の武市瑞山あてに草莽の横断的結合を提示。高杉らと攘夷血盟書をつくって御殿山英国公使館を焼討ちした。

8月18日政変 1863＝23歳： 同志とともに下関で公卿中山忠光を奉じて光明寺党を結成、奇兵隊の基盤となる。京都で天皇の攘夷親征をめぐって奔走したが、<八月十八日の政変>により情勢は一変、政務役として京都駐在を命じられ、

禁門の変・・・1864＝24歳： *京都・山口間を往復し、家老国司信濃や遊撃軍来島又兵衛らの実力による入京を阻止しようとしたが、軍議が進発論に決するや参加、<禁門の変>となり、流弾にあたって鷹司邸で寺島忠三郎と自尽した。